

長い黒髪が風でゆれていた

英語作文中、本当は、そんなことより、あの時、帰りの阪急電車と、京阪電車で、ずっと、一緒だった女生徒のことを思い出していた。

僕は、試合で、ゴールキーパーやっていた。そばで、同じ京都出身なのだろう、三位決定戦で、ワーワー応援してくれていた女生徒のグループがあった。その子もいた。時々、視線が合った。

「そうか、この子も、毎朝、通学の時、京阪電車一緒なんだ。」しかし、それまで、全く、気がつかなかった。

向こうもグループで、こちらもグループ。同じ車両で、阪急電車に乗った。僕等は、疲れて、眠っていた。

四条京阪で、僕は仲間と別れた。

その子も、仲間と別れた。

自然に、京阪電車と一緒に改札口を通り、並んで、電車を待った。

来た電車に乗った。お互い何度も目が合った。

深草の駅で降りるその子の後ろ姿を、走る電車の窓から、僕はずっと目で追った。長い黒髪が、風でゆれていた。